

キュルケだけでなく、 タバサも才人狙いだった。

才人に対するキュルケの熱烈なアプローチは『ゼロの使い魔』1巻からあったが、『魔法の国のサイエンス』では、タバサも才人の操を狙っていた。中盤では、キュルケとタバサがそれぞれ惚れ薬を飲ませ、才人が二人ともに惚れてしまう展開であった。

もちろん、ルイズは常に嫉妬しっぱなし。才人をめぐる女の戦いはより過酷だったのだ。

……こんなの私じゃない。ありえない



ちょ、私だって惚れ薬になんか頼らないわよ!



あ、あ、あたしの犬に手を出すなんて……!



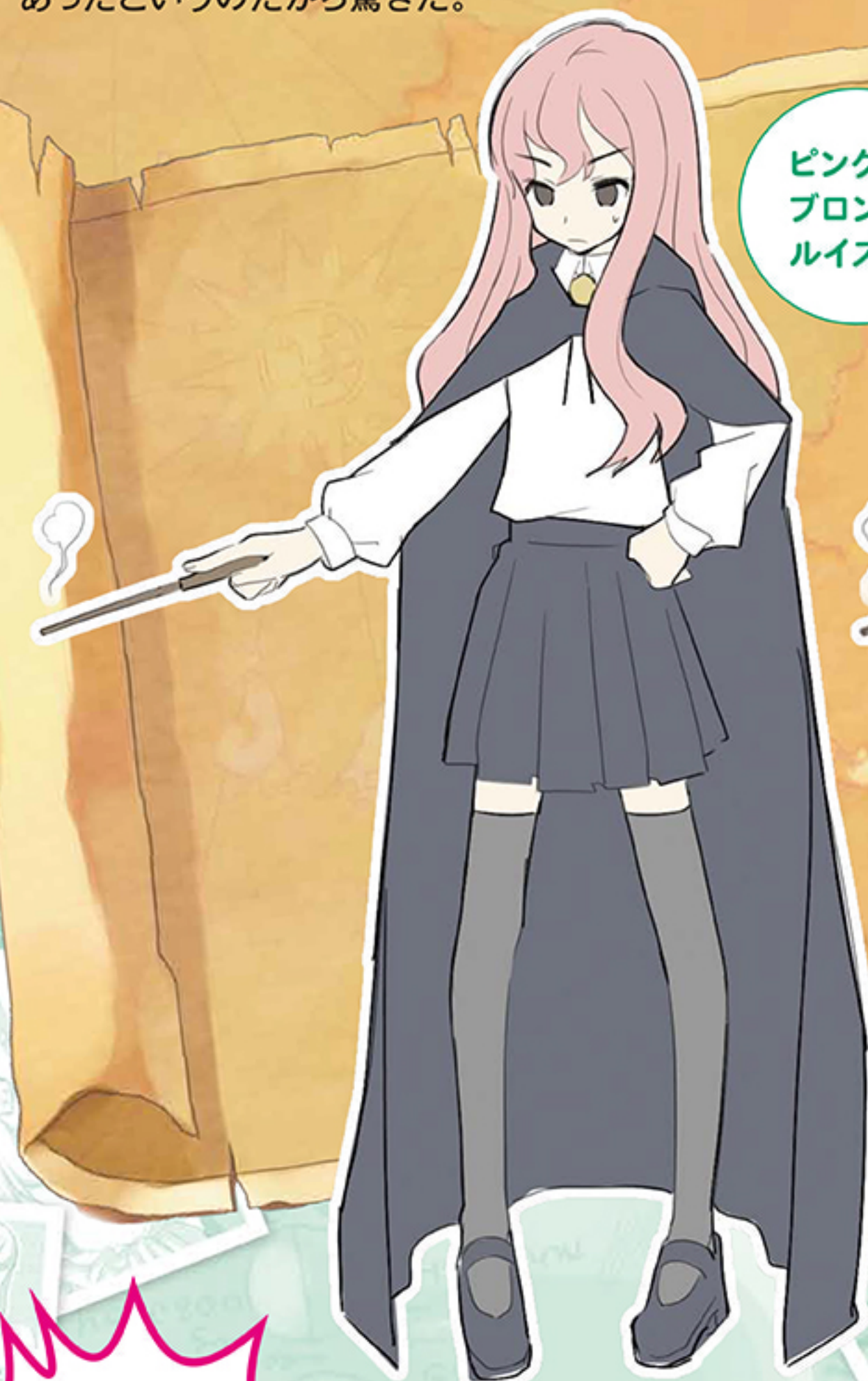
『ゼロの使い魔』のタバサ&キュルケ初期デザイン。



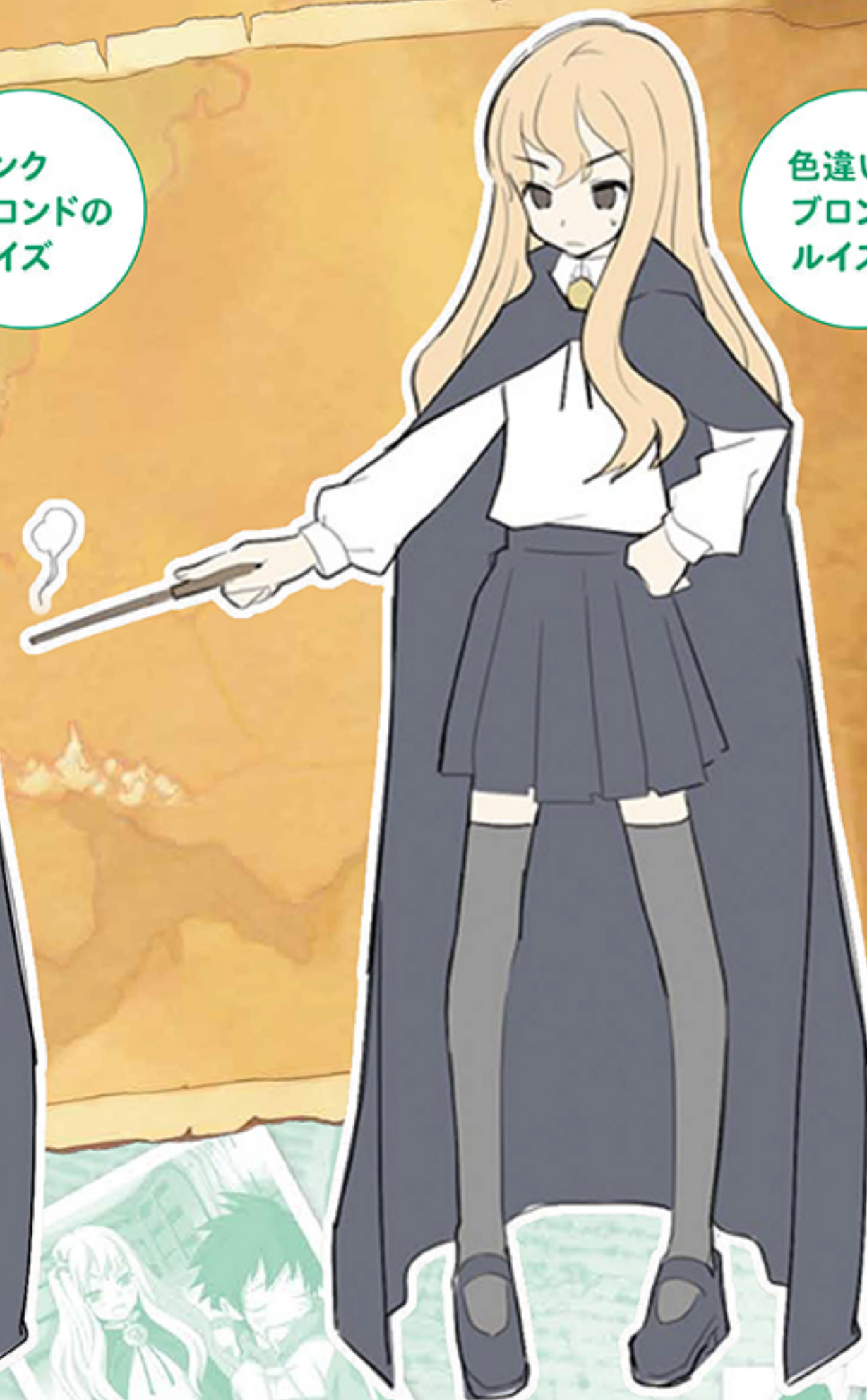
ルイズの髪はピンクじゃなかったかも!?

いまやルイズの代名詞とも言えるほど有名な、ピンクブロンド。それがブロンドになる可能性もあったというのだから驚きだ。

ピンク
ブロンドの
ルイズ



色違いの
ブロンド!
ルイズ



『ゼロの使い魔』の原題は、 『魔法の国のサイエンス』 だった。

ゼロ戦やロケットランチャーなど、“現代科学”の香りたてよう『ゼロの使い魔』。それもそのはず、元々は魔法と科学の対比に主眼が置かれた作品だったようだ。

『魔法の国のサイエンス』では、火水土風の四系統の魔法に次いで、才人の操る「科学の力」が第五の系統として数えられる展開も。

その後、『ゼロの使い魔』で“第五の系統”がどうなったかは、読者の皆様の知るところである。

最終的な『ゼロの使い魔』というタイトルは、編集長の鶴の一声で決まった。ヤマグチ先生は『ゼロのガンダールヴ』というタイトルを推していたらしいぞ。

へー、俺が第五の系統の使い手だったんだってさ、ルイズ



ギーシュは 男色の傾向があった?

『ゼロの使い魔』でも屈指のキャラ立ちを見せるギーシュ。

『魔法の国のサイエンス』のヤマグチ先生のキャラ設定書には、はっきりと「ナルシストで男色の傾向あり」の文字が! これを読むと、『ゼロの使い魔』1巻でお互いを認め合う才人とギーシュの描写も、なにか深読みをしてしまいそう。逃げて才人!

◀『ゼロの使い魔』のギーシュ初期ラフ。とても男色家には見えない……よね?



シエスタは 「女剣士」だった。

けなげな平民の巨乳メイド。それが『ゼロの使い魔』におけるシエスタ像だろう。

だが『魔法の国のサイエンス』のシエスタは「魔法学院警備隊の女剣士」であり、「日焼けした肌と、しなやかな体。性格はからっとして、男勝り」だった。

なお、『ゼロの使い魔』段階ではなくなったルキアというキャラクター(シエスタの妹)が、魔法学院のメイドだった。

私、ホントは強かったんですよ!



あによ。なんか文句でもあんの?



『魔法の国のサイエンス』では、

ルイズの胸は Cカップ だった……。

才人は「マッドサイエンティスト」 の設定だった。

なんと、才人は科学部部长にして発明オタク少年だった! まさに“サイエンス”を体現したキャラクターだったようだ。プロットでは、「破壊の杖」こと「M72ロケットランチャー」をぶっ放すのはもちろん、幻獣グリフォンをクロロホルムで眠らせたりしている。

とすると、平賀才人の名前の由来はもしかして……?

◀『ゼロの使い魔』の才人の初期デザイン。『魔法の国のサイエンス』だったなら、もっとオタクっぽい外見だったのだろうか?

